



私たちが活動している能代市檜山地区は、戦国時代に安東氏が治めていた檜山城址がある歴史の町です。秋田音頭にうたわれている檜山納豆や、北限の茶である檜山茶がある檜山の中心部ではなく、東部の母体地区を拠点に、炭やきを中心として活動しています。

檜山地域 再生プロジェクト



炭やき

檜山地域では、昭和二十五年頃まで、農閑期である冬の重要な生業として炭やきが行われていました。しかし、戦後のエネルギー革命や国の政策転換により炭の生産は衰退していきました。しかし、檜山地域で活動し、地元の方と話し合いを重ねていく中で、炭やきをもう一度復活させ、交流人口の増加につなげたいという希望があることがわかり、檜山の空に再び炭やきの煙をのぼらせるため活動してきました。平成二十八年九月には炭窯が完成。以降、炭やきによる地域内での交流促進や炭やきを後世に伝えること等を目的として活動してきました。

現在は、農業の傍ら炭やきを行う、衰退以前に近い生活スタイルで、継続的に白炭をつくっています。



羽立ささら

羽立地区で毎年お盆に行われている伝統芸能「羽立ささら」は、地域の男衆のみが参加を許された行事でしたが、少子化や人口減少に伴い、存続の危機にありました。

学生の参加が、地域の女性の参加にもつながり、伝統芸能存続の道を辿っています。

今年には学生5名(男3名、女2名)が参加しました。

今後も伝統芸能「羽立ささら」への参加を続けていきたいと考えています。